

あおえネットワーク


10
2026



岡山赤十字病院 患者サポートセンター



○医師の新任（10月1日付）

医師氏名	カナ	職名	所属・専門分野	卒年	前勤務地・備考
宗田 大二郎	ソウダ ダイジロウ	医師	泌尿器科	平成29年	鳥取市立病院

●医師の退任（9月30日付）

医師氏名	カナ	職名	所属・専門分野
廣野 美紗	ヒロノ ミサ	医師	泌尿器科
安富 有希	ヤストミ ユキ	医師	消化器内科

研修会・カンファレンスのご案内

※ポスター同封

※会場参加の際は、感染症予防対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

日時・会場	名称	演題・演者等
令和8年11月4日(水) 18:40 ~ 18:55 岡山赤十字病院 南館1階 研修室	第37回 地域連携パス 連絡会	【脳卒中パスについて】 岡山赤十字病院 脳卒中科部長 岩永 健 【大腿骨頸部骨折パスについて】 岡山赤十字病院 第一整形外科医長 堀田 佳史
令和8年11月4日(水) 19:00 ~ 20:00 岡山赤十字病院 南館1階 研修室 ※今年度より開催時間が 変更になっております。 ご注意ください	第98回 岡山赤十字病院 病診連携研修会 *詳細は同封のチラシ をご覧ください。	テーマ『心不全治療に関する最新治療と多職種連携』 ●『心不全再入院予防について』 岡山赤十字病院 循環器内科部長 福家 聡一郎 ●『当院での心不全生活指導と心不全患者を支える栄養指導』 岡山赤十字病院 心不全療養指導士 看護師 長谷川 結花 管理栄養士 小山 真奈 《生涯教育カリキュラム(1.0単位) : 73 : 慢性疾患・複合疾患の管理 (0.5)、10 : チーム医療 (0.5) 》

KChart（ケイチャート）画像連携サービスについて



カルテ閲覧システム KChart（ケイチャート）に新しい機能が追加されます。

従来の機能に加え、CT、MRIなどの画像が閲覧可能となります。

開始時期など詳細につきましては、10月中に改めてご案内いたします。



がんサロン開催のお知らせ

日時：10月13日(火) 10:00~11:00

場所：岡山赤十字病院 南館2階 会議室1

対象：がん患者さんとそのご家族

（入院中の方、通院中の方どなたでも参加できます）

1. 『がん治療中の日常生活について』

講師：がん化学療法看護認定看護師 武田 芽衣

2. 座談会

（内容は問いません）



ご要望・ご意見等ございましたら、「診療所の先生方の声」として
地域医療連携課までお寄せください。

TEL/086-235-8555 FAX/086-235-8556

e-mail/renkei@okayama-med.jrc.or.jp

QRコードからも入力できます
ぜひご利用ください！



院内Topics ニュース&報告

令和8年熊本地震災害救護活動報告 DMATコーディネーターチーム

7月31日から8月7日まで、DMATコーディネーターとして熊本県で活動しました。

済生会熊本病院に設置された県央南活動拠点本部から被害の大きかった宇城地域を任せ、宇城保健所に設置された宇木地域保健医療福祉調整本部の本部長として、地域の支援調整体制の再構築にあたりました。現地では多数の支援団体が活動する一方、本部運営や情報共有、活動場所の確保など多くの課題が生じていました。そこで、赤十字、JMAT、DPAT、DWAT、JRAT、保健所、宇城市、社会福祉協議会など関係機関との連携を進め、本部移転、定例会議の整備、行政との連絡体制構築、J-SPEED・D24Hを活用した情報共有などに取り組みました。今回の活動を通じ、災害医療では診療支援だけでなく、多様な組織をつなぎ、地域全体を俯瞰して調整するコーディネート機能の重要性を改めて実感しました。

この経験を、今後の当院ならびに岡山県の災害医療体制の強化に還元していきたいと思います。

医療社会事業部長 齋藤 博則



令和8年熊本地震災害 救護班活動報告(第1班)

令和8年熊本地震災害における日赤救護班としての活動を報告いたします。本派遣では、施設避難所のアセスメントや、巡回診療相談を通じ、生活状況の把握と被災者支援に従事しました。

アセスメントを通じ、医療ニーズが落ち着くにつれ、支援の中心が「こころのケア」へ移行していく過程を実感しました。診療や相談の場では、単に症状を診るだけでなく、被災者の話にじっくりと耳を傾け、抱える不安や疲労感に寄り添う関わりを大切にしました。また、住民同士が助け合う姿が印象に残る一方、避難所を運営する自治体職員も被災者でありながら懸命に職務遂行している姿を見受け、「支援する側への支援」の必要性を痛感しました。こうした対話、関わりから得た気づきや現場での課題を、J-speedやD24H等へ正確に入力・集約できたことは、変化するニーズを可視化し、適切な支援体制を構築する上で大きな役割を果たしたと感じています。

連日酷暑環境下での活動となりましたが、救護班全員で協力し合い一丸となって活動することが出来ました。今後の中長期的な生活・精神的支援へ向けて、現場で懸命に生きる方々の想いに寄り添う姿勢と情報連携を大切にし、今回の活動の成果が次班へ繋がればと思います。

5東病棟 都能 美絵

